

特別支援学校で取り組む「オリンピック・パラリンピック教育」  
～自立と社会参加に向けた取組～

学校名 山口県立田布施総合支援学校

全校児童数 167名（男子113名 女子54名）

(本実践に係る問合せ先)

電話番号 0820 (52) 3572

学校メールアドレス a52107@pref.yamaguchi.lg.jp

### 1 実践（研究）のねらい

特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育（以下、「オリパラ教育」という）

- (1) オリンピアン・パラリンピアンによる授業や体験教室、オリパラ教育等を通じて、オリンピック・パラリンピックに関する興味関心を高めるとともに、スポーツの楽しさや取り組む姿勢について学び、生涯にわたりスポーツに親しむ素地を養う。
- (2) スポーツを核とした交流及び共同学習等の心触れ合う機会を通じて、障害や障害のある児童生徒への理解を促進するとともに、共生社会の実現に向けた理解促進の機会とする。

## ○課題を解決するために実践した具体的な取組について

### 1 オリンピアン等によるスポーツ教室

- (1) アテネ、北京、ロンドンなどオリンピック3大会出場の子山崎勇喜氏（陸上：競歩）、公益財団法人日本財団 パラリンピックサポートセンターの永田悠祐氏を招へいし、「オリンピック・パラリンピック」「競歩」について講義いただくとともに、「陸上教室」では、競歩体験とともに、速くなる走り方について分かりやすく説明いただいた。また、「陸上教室」では、近隣の小学校の児童にも参加いただき、競歩体験やしっぽ取りゲームなどの交流及び共同学習を行った。
- (2) フライングディスクの日本記録保持者の大内勝利氏を招へいし、フライングディスクを遠くに投げるコツやコントロールのコツについて講義いただき、フライングディスクを体験した。

### 2 学校全体で取り組むオリパラ教育

- ①年間を通じた「体力づくり」設定による児童生徒の体力向上
- ②オリパラ給食を通じた異文化理解
- ③寄宿舎における調べ学習（パラリンピック開催国や歴史について）による国際理解
- ④文化祭におけるオリパラ教育発表会

## ○成果の意義

- 1 オリンピック出場を果たした選手や世界で活躍した選手と直接交流することにより、オリンピックやパラリンピックを身近な存在として捉え、スポーツに関する興味関心を高めることができた。また、日々の「体力づくり」にも意欲的に取り組む姿が見られた。
- 2 オリパラ給食を通じて世界の料理や文化などを学ぶとともに、世界の国や歴史について調べた学習内容を文化祭において発表するなど、保護者や地域へ情報を発信することができた。また、交流及び共同学習や文化祭での発表等を通じて、相互理解や障害等に関する理解促進に努めた。

## ○今後の課題

- 1 先進校の取組等を参考にしながら、持続可能な具体的取組の検討・継続・発展
- 2 取組の成果の共有化に向けた、情報発信の工夫及び外部との連携
- 3 共生社会の実現に向けた、交流及び共同学習や地域協働活動の一層の充実による理解促進

## ○ 研究内容

### オリンピック（山崎勇喜さん）とのスポーツ教室

近隣の小学生と一緒に汗を流した。



### オリパラ給食を通じた異文化理解

身近な給食を通じて世界の料理や文化を学んだ。



### 寄宿舎による調べ学習

なりきり写真やオリパラ開催国について学習した。



### 文化祭によるオリパラ教育の発表

これまでの取組の成果を発表した。



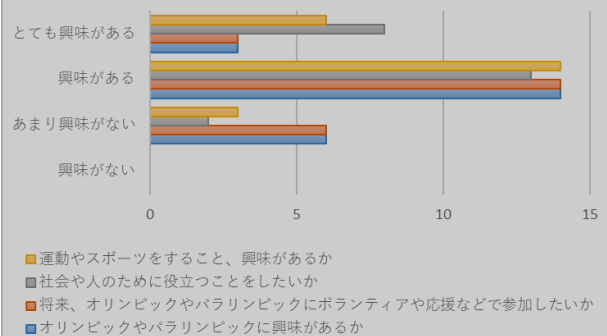
### オリンピックによるスポーツ教室後のアンケートより

高等部生徒が振り返りを行った。

#### 【生徒の変容】

実施後のアンケートから、「オリンピックやパラリンピック」について興味を示すとともに、「ボランティアや応援などで参加したい」と興味を示す生徒が多かった。

また、「社会や人のために役立つことをしたい」と前向きに考える生徒や、「運動やスポーツを取り組みたい」と興味を示す生徒が多い傾向が見られた。



### 今後の取組について

～実践終了後の学校の取組の方向性、内容について～

- 2020年開催年度となったオリンピック・パラリンピックを契機として、本校におけるオリパラ教育を一層充実・発展させ、児童生徒のスポーツに関する興味を高め、生涯にわたりスポーツに親しむ素地を養う。また、交流及び共同学習の充実及び地域等と連携・協働した活動を一層充実させ、障害や障害のある生徒への理解を促進するとともに、共生社会の実現に向けた理解を促進する。